

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	普及・研究
課題名：ミヤコタナゴ（天然記念物）の保護増殖に向けた取り組み			
<p>〔要約〕天然記念物のミヤコタナゴは、生息環境の悪化等により絶滅の危機に瀕しており、一部地域に生息するのみである。ミヤコタナゴはイシガイ類の鰓に産卵する特殊な生態を持ち、繁殖に必要なイシガイ類の激減がミヤコタナゴの主な減少要因になっている。そこで、ミヤコタナゴの保護増殖を目的として実用的な増殖方法の開発を行うとともに、生息域外での系統保存を行っている。また、イシガイ類の幼生を放出させてメダカに寄生させることにより、着底稚貝を効率的に得る手法を開発した。</p>			
キーワード [※] ミヤコタナゴ、イシガイ類、系統保存、増殖技術、希少種			
実施機関名	主 査 水産総合研究センター内水面水産研究所 協力機関		
実施期間	1993年度～2018年度		

〔目的及び背景〕

ミヤコタナゴは、国指定の天然記念物で、現在は生息域の環境悪化等により減少し、絶滅の危機に瀕しており、野生下での生息が確認されているのは、千葉県、栃木県の一部地域のみである。また、本種はイシガイ類の鰓に産卵し、ふ化仔魚は貝の中で約1か月生活するため、イシガイ類はミヤコタナゴの生息に不可欠であるが、この貝類も環境悪化等により減少している。

そこで、平成3年からミヤコタナゴの保護増殖を目的として、県内産ミヤコタナゴの系統群を保存するとともに、二枚貝を使用しないミヤコタナゴ人工増殖手法の開発を行った。また、平成11年からはミヤコタナゴの自然繁殖に必要なイシガイ類の増殖技術開発を行った。

〔成果内容〕

- 1 人工授精後の卵の管理を、イシガイ類を使わずにシャーレ内で行う人工増殖手法を確立した。
- 2 さらに、この手法の改良を重ね、市販のハッチングジャー（ふ化器）やペットボトルを用いた自作ハッチングジャーを用いた方法を経て、より簡便な大型ビーカーを用いた手法を開発し実用化した。
- 3 これらの手法により、平成3年から現在に至るまで、ミヤコタナゴを絶やすことなく飼育を続けるとともに、専門設備の有無に関係せず、多様な施設への増殖技術の普及が可能となった。
- 4 イシガイ類の産卵について、飼育水の昇温と干出により人工的に成熟個体から幼生を放出させる手法を開発した。
- 5 また、幼生をメダカに高密度で寄生させることにより、効率的に着底稚貝を得る手法

を開発した。メダカは、イシガイ類幼生の本来の宿主である。

[留意事項]

本種は、文化財保護法および絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）により捕獲や譲渡し等について制限されている。

[普及対象地域]

県内のミヤコタナゴ生息地を管理する自治体、系統保存施設等

[行政上の措置] なし

[普及状況] なし

[成果の概要]



写真1 ミヤコタナゴ人工採卵の様子



写真2 メダカのヒレに寄生させた貝の幼生

[発表及び関連文献]

- 1 マツカサガイ *Inversidens japonensis* の人工増殖に関する基礎研究，千葉県水産総合研究センター研究報告，第2号，2007年

[その他]

- 1 平成28年度試験研究要望課題（提起機関：自然保護課 生物多様性センター）
- 2 環境省委託業務 希少野生動植物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）